

八、墨書・篋書

奉教修理 宮内大臣伯爵渡邊千秋

寶庫主管 帝室博物館總長股野 琢
 工事主管 内匠頭工學博士片山東熊

内匠寮技師 木子幸三郎

天平勝寶八歲 聖武天皇崩六月廿一日 值其七七忌日 光明皇
 后追念倍切 將欲託勝業以禱冥福乃納 天皇遺愛玩好 迨衣帶弓
 箭刀劍書法樂器等 于東大寺以供養大佛及諸佛菩薩 一切賢聖而
 此寶庫為其收藏之處 距今實千五百五十八年矣 歲月之久 時有破損
 從而修理之 不止于一再 及近時 破損漸大 屋宇傾斜 不能無萬一之
 虞 因具申之於宮内大臣 大臣仰 勅裁使内匠頭修理之 其法先建
 假倉庫于構内 西方之地 移納寶物 而後撤屋卸棟 諸材悉分解之 其
 朽腐者以新材補之 柱礎傾者起而正之 雖片瓦寸木 苟足用者 則存
 之 結構期堅牢 而不變舊態 是修理之大綱也 本年三月起 工十二月
 竣工 因附記其梗概云

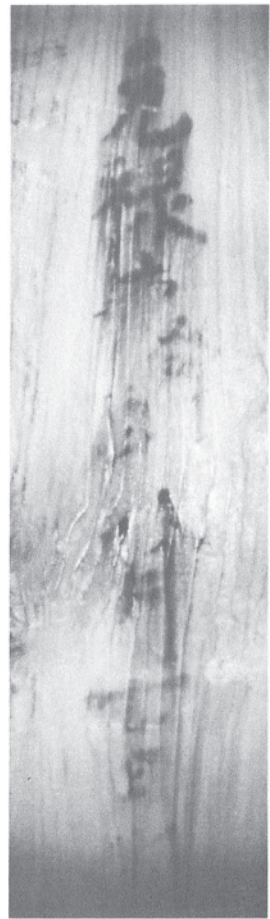
大正二年十二月 帝室博物館總長股野 琢

250 正倉棟札 (大正二年)



[本文五一一一三]

249 北倉扉板刻字 (明治十七年)



[本文五一一二]

248 北倉二階四天柱墨書 (元祿六年)

[本文五一一一]

251 切裏甲上端番付 (年代不詳)





254 東南一の鬼瓦籠書(慶長八年)

(本文五―二―一五)



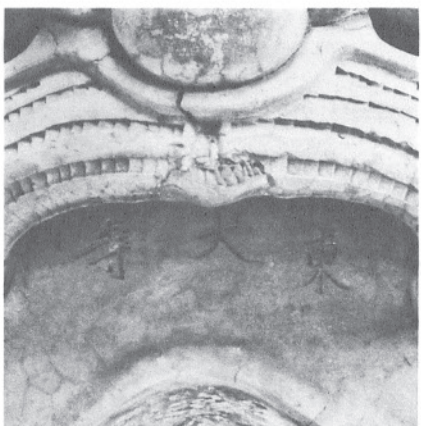
253 西南一の鳥衾瓦籠書(慶長八年)

(本文五―二―二二)



252 西南二の鳥衾瓦籠書(慶長八年)

(本文五―二―二一)



(正面顎下)



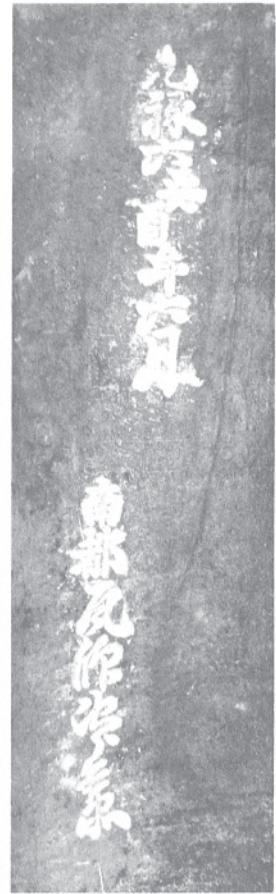
(左側面)



(右側面)

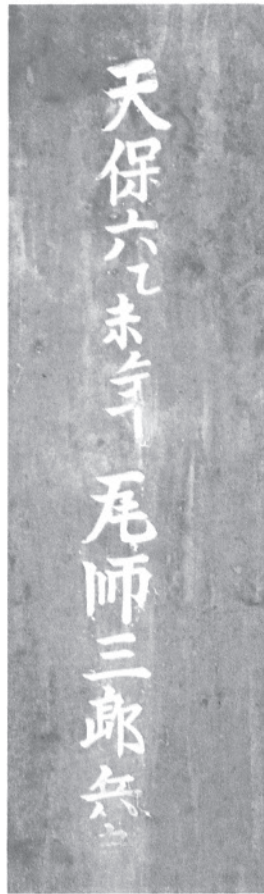
255 西南二の鬼瓦籠書(慶長八年)

(本文五―二―一六)



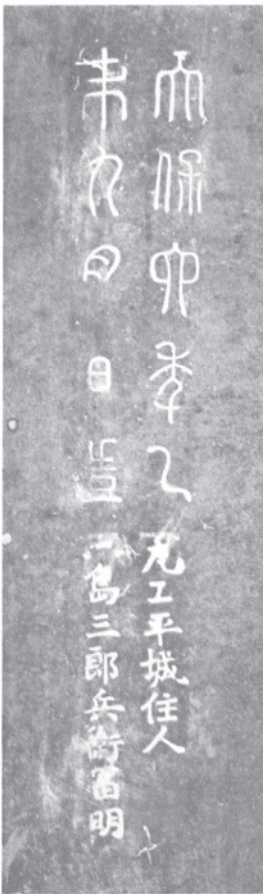
〔本文五二一七〕

◎軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・西北隅丸瓦にあり、おもに裏面に刻印される。年号と瓦師名がそれぞれ別の判として作られる。



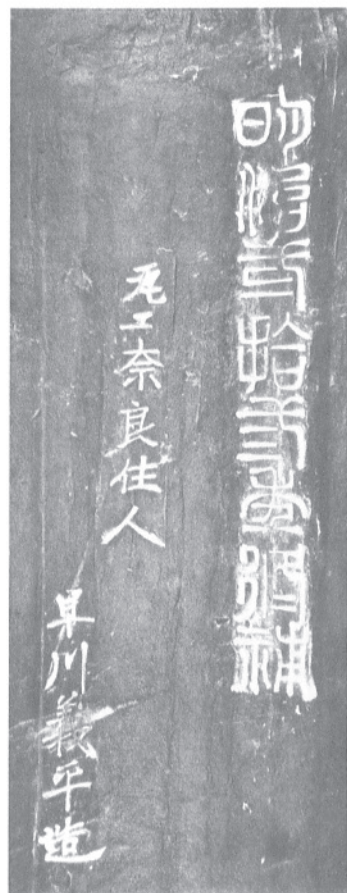
〔本文五二一八〕

◎軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・鳥衾瓦にあり、瓦の表面・裏面どちらかに刻印される。年号と瓦師名がそれぞれ別の判として作られる。



〔本文五二一九〕

◎年紀部分が篆書になり、上下が別の判として作られる。軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・鳥衾瓦にあり、瓦の表面・裏面どちらかに刻印される。

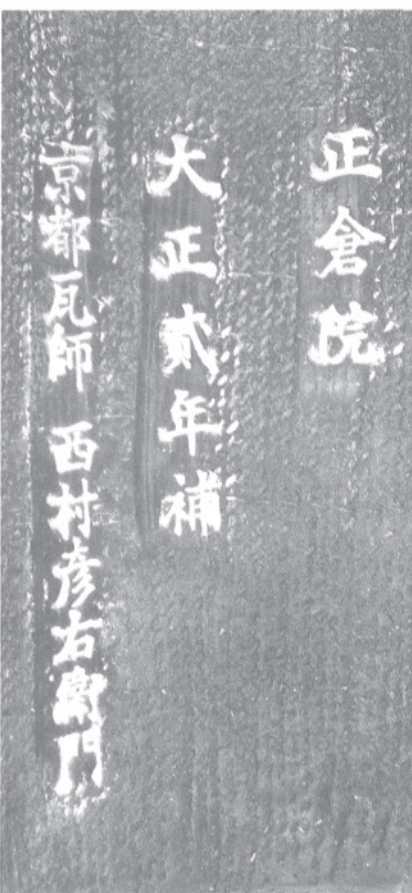


〔本文五二二〇〕

◎年紀部分が篆書になり、各行で別の判として作られ、軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・東北一及び東南一の鳥衾瓦にあり、おもに瓦裏面に刻印される。

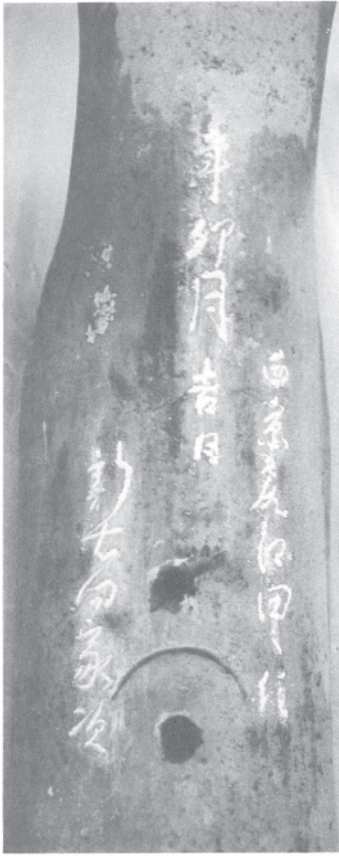


〔本文五二二一〕



〔本文五二二三〕

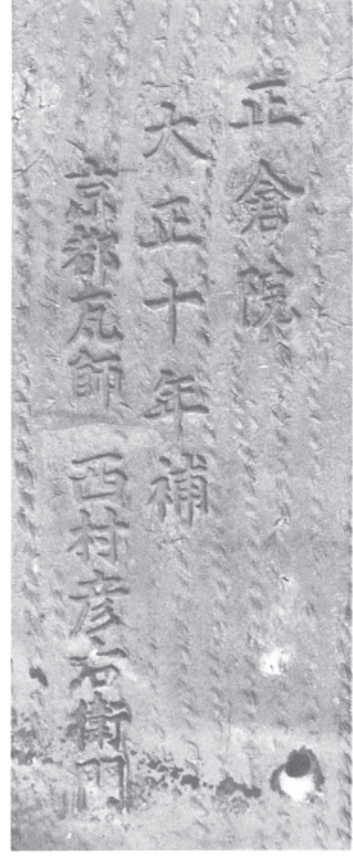
◎大棟鳥衾瓦南側ほか軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・鳥衾瓦・雁振瓦など大正二年補足瓦すべてに刻印される。



263 西北一の鳥衾瓦範書

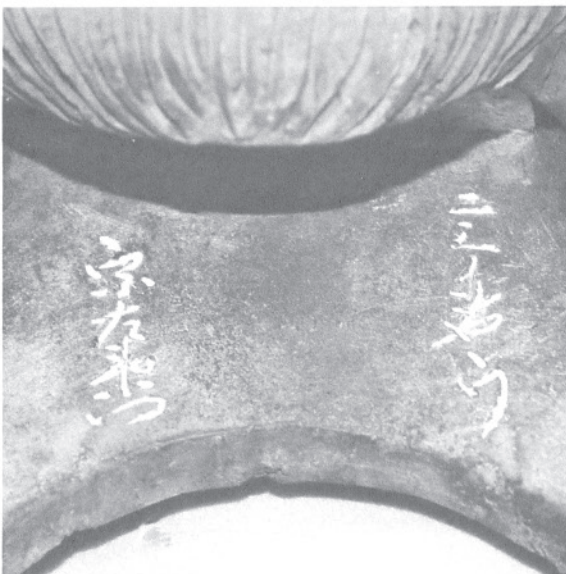
〔本文五―二一―一六〕

◎刻印は、大正十年補足瓦の軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・雁振瓦・敷斗瓦に見られ、大棟北側鳥衾瓦（写真左）には範書もあった。

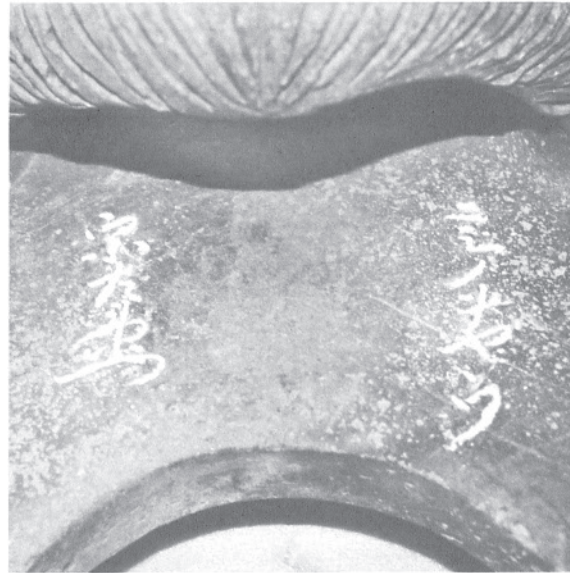


262 瓦刻印（大正十年）

〔本文五―二一―一四・一五〕

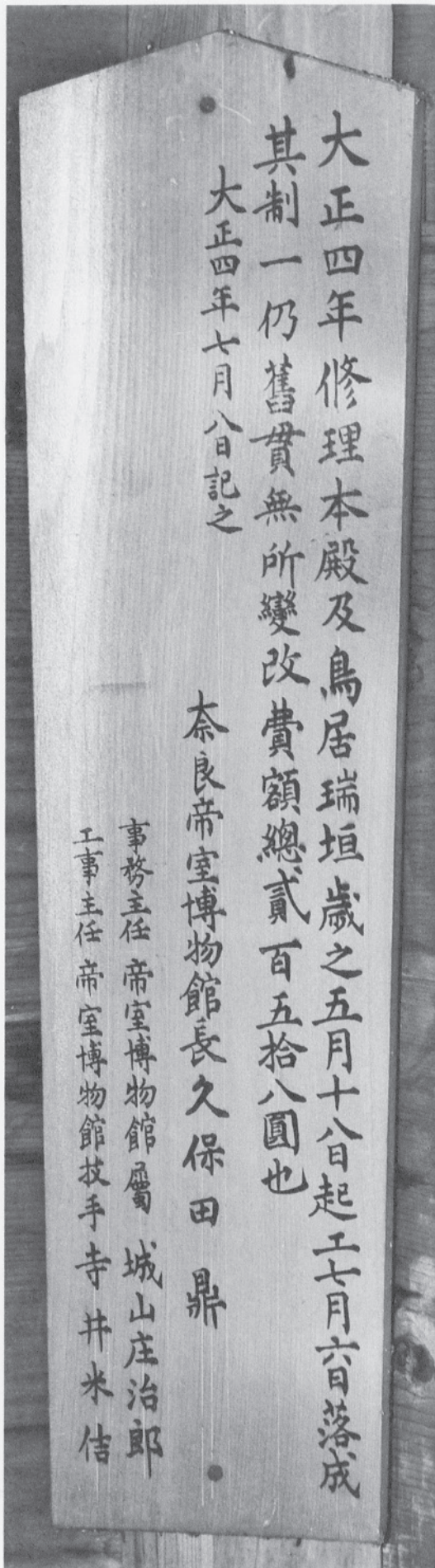


（二の鬼瓦）

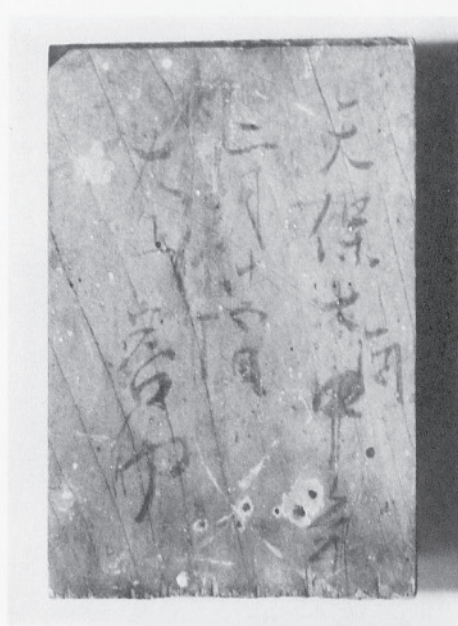


264 西北一及び二の鬼瓦範書
（一の鬼瓦）

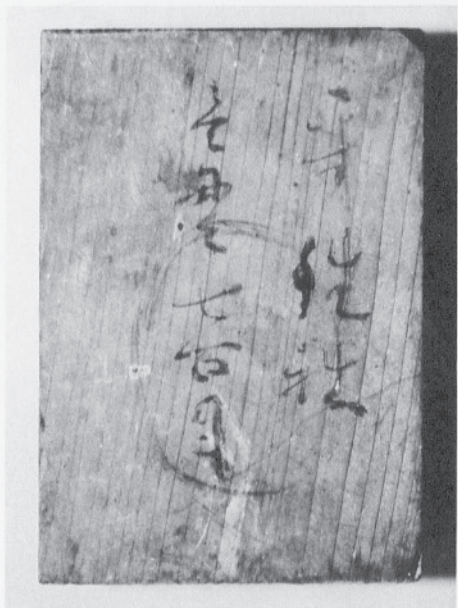
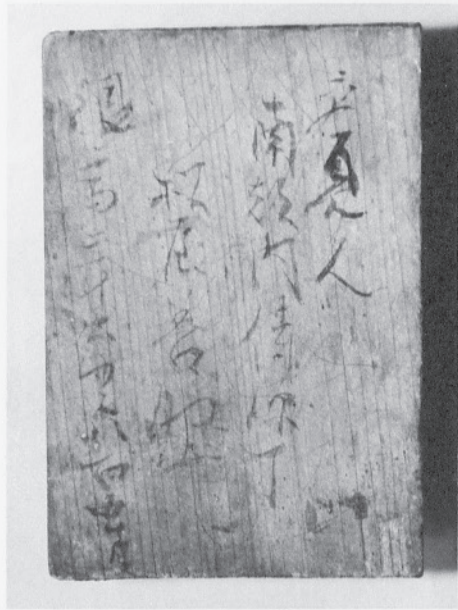
〔本文五―二一―一七〕



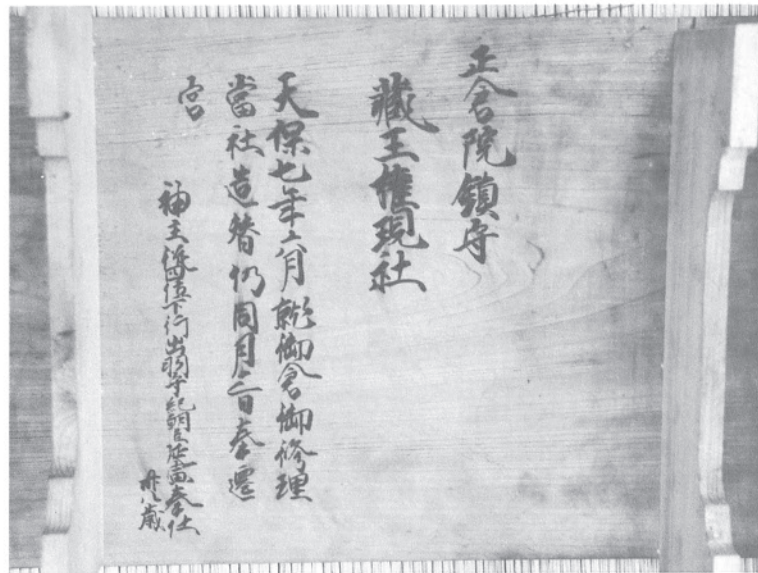
〔本文五十一―一五〕



〔本文五十一―一四〕

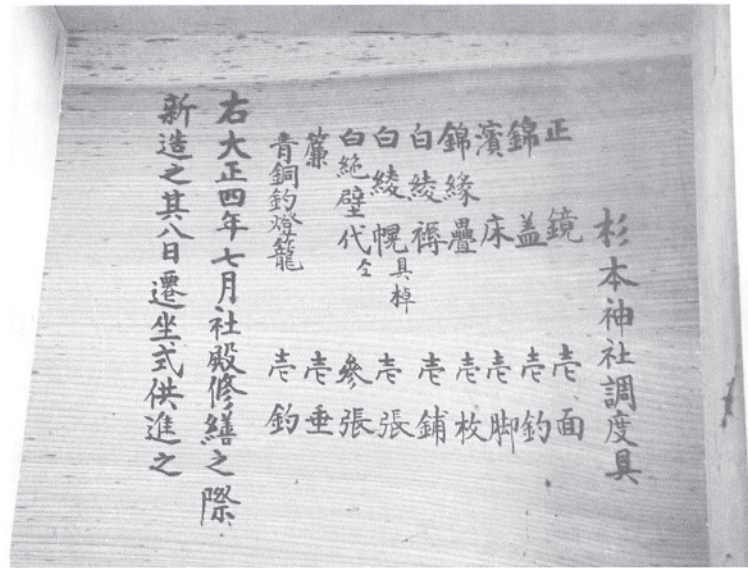


◎直方体の木片の木口以外の四面に書かれた墨書。もう一面には△印が描かれる。前面底部分の小屋裏から発見された。

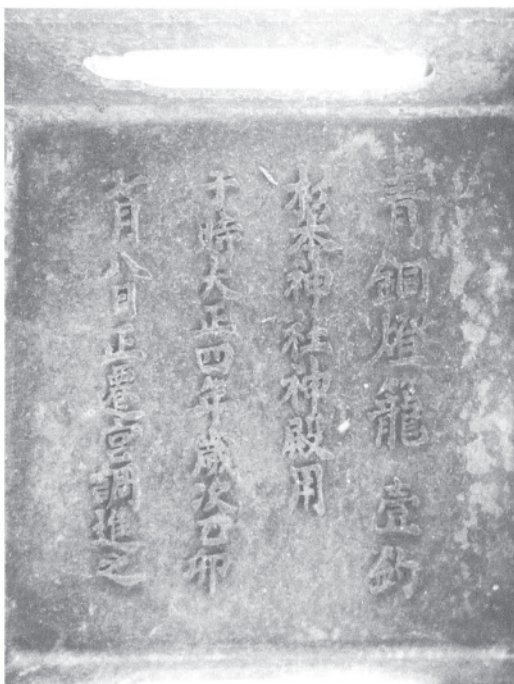


267 杉本神社供物台裏面墨書 (天保七年)

[本文五—一—六]



268 杉本神社浜床裏面墨書 (大正四年)



270 杉本神社青銅釣燈籠刻銘 (大正四年)



269 杉本神社正鏡刻銘 (大正四年)

平成二十七年三月

正倉院正倉整備記録 図版写真編

発行 宮内庁

東京都千代田区千代田一番一号

電話 〇三―三三―三三―一一―一一

編集 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

東京都荒川区西日暮里二丁目三二番一五号

電話 〇三―六四―五八―三六―一一

印刷 眞陽社

京都市下京区油小路仏光寺上ル

電話 〇七五―三五―一一―六〇―三四